

宮城県村田町工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

村田町は、阿武隈川、白石川の流域に開けた宮城県南の米作地帯で、仙台市の南方20kmに位置することもあり、古くから、仙台と山形を結ぶ交通の要衝として繁栄してきた。

近年においても、こうした地理的な好条件が特徴となり、東北自動車道村田IC・山形自動車道村田JCTが設置され、東北新幹線、それに海空の玄関である仙台新港・仙台空港といったような陸海空の交通網が一体となって高速交通体系の相乗効果が期待され、村田町に工業団地が造成されることとなった。

工業用水道施設は、この交通の利を生かして造成された工業団地の付加価値を高め、企業誘致の一助とする目的で計画され、開発行為の協議で開発者が設置し、完成後に本町に移管されたものである。

○事業の経緯

村田町の工業用水道は、宮城県の長期総合計画で県南の中核的内陸工業団地として位置づけられ、宮城県土地開発公社が主体となり、昭和52年度より着手、昭和57年度に完成した村田工業団地造成と並行して設置されたものである。

この間、昭和56年度より一部分譲を開始するとともに工業用水道の需要が発生したため、暫定的な措置として宮城県土地開発公社が自家用工業用水道として一部給水を開始した。

平成元年度をもって合計16社が立地し、工業団地が完売となったことに伴い、前途協議に基づき本町に無償譲渡され、平成3年4月1日村田町工業用水道事業として給水開始されたものである。

○ユーザーの概要

(平成20年4月1日現在)

| 業種 | 給水件数 | 契約水量 (m ³ /日) |
|----|------|--------------------------|
| 化学 | 2 | 340 |
| 金属 | 1 | 60 |
| 鉄鋼 | 1 | 200 |
| 合計 | 4 | 600 |

○工業用水道施設の概要

工業団地周辺の地下水を水源とし、深井戸から取水ポンプにて取水、導水管によって、配水施設へ送っている。

浄水方法については、地下水を水源とすることから原水水質は工業用水条例に示す水質基準内で安定しているため無処理とし、原水供給を行っている。

配水施設は場内に着水井、配水池を設置し、配水管にて各配水先に自然流下にて配水している。

給水能力については1日当たり1,000m³である。

○事業の特徴

- ・取水・導水施設は、上記水源の他に別途予備水源（地下水・深井戸）を設け、安定給水を確保している。

○給水系統を含む給水区域図

村田町工業用水道施設図

